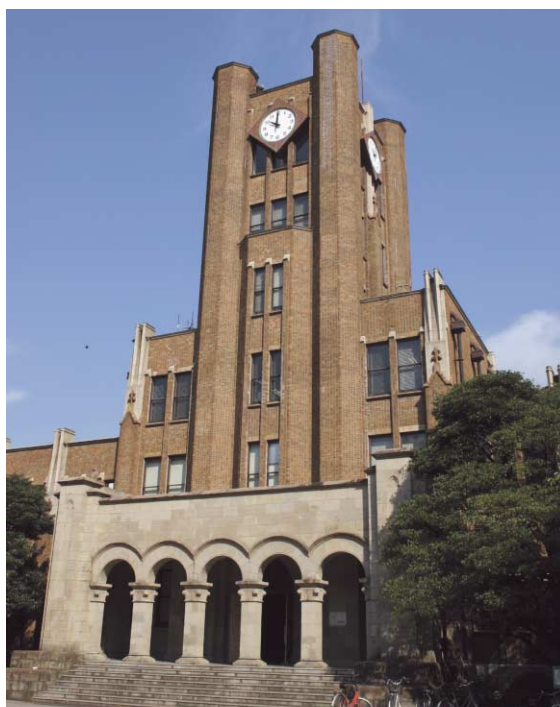




# 学内広報

No.1316

2005.6.22  
東京大学広報委員会



駒場キャンパス1号館の時計台（4ページに関連記事）

## CONTENTS

一般ニュース .....	2	会が開催される			
領域創成プロジェクト・学術統合化プロジェクト 設立シンポジウムを開催		キャンパスニュース .....	9		
部局ニュース .....	3	平成17年度外国人学生数			
法学政治学研究科・法学部、公共政策学教育部で 留学生見学旅行を実施、2005年日・EU市民交流年 記念シンポジウム、駒場キャンパス1号館時計台 の一日限定公開、教育学部附属中等教育学校で 「東京大学探検」実施、教育実習生に対するオリエン テーションの開催、第32回医科研創立記念シン ポジウム開催される、分子細胞生物学研究所参与 会開催、分子細胞生物学研究所所内発表会と新人 歓迎会の開催、東京大学コレクションXX『関野貞 アジア踏査—平等院・法隆寺から高句麗壁画古墳へ』展 の内覧会・レセプション開催される、国立 大学法人留学生センター留学生指導担当研究協議		掲示板 .....	18		
		学生表彰「東京大学総長賞」の推薦受付について、 研究所ネットワーク国際シンポジウムの開催につ いて—Shirokane International Symposium—、第3 回東京大学学生発明コンテスト、重力波によるア インシュタイン宇宙の探査に関するシンポジウム のお知らせ、海洋研究所「海の日」一般公開につ いて、東京大学コレクションXX『関野貞アジア踏 査—平等院・法隆寺から高句麗壁画古墳へ』展、 「 <sup>14</sup> C年代測定—最新の暦年較正曲線—」講演会のお 知らせ		EVENT INFO .....	23
		淡青評論 本郷キャンパス点描 .....	24		

**総括プロジェクト機構  
領域創成プロジェクト・学術統合化プロジェクト  
設立シンポジウムを開催**

6月6日（月）14時より、山上会館大会議室において「東京大学領域創成プロジェクト・学術統合化プロジェクト設立シンポジウム」を開催した。本プロジェクトは、小宮山宏総長の主導により本年4月に発足したもので、第一弾として、学術統合化プロジェクト（ヒト）が始動している。

シンポジウム前半は、桐野豊副学長・総括プロジェクト機構長による司会により、小宮山総長が、全体のねらいについて講演を行った。個別の知識だけでは問題が解決しない、あるいは実体に迫ることが困難な、環境問題や生命現象に切り込む新しい学問の構築を目指しているとの説明があった。プロジェクトリーダーの高木利久教授は、目標として、生命科学知識を統合する技術、知識を分かりやすく提示する手法、およびこれらを体现するプラットフォームの開発を挙げた。黒田真也特任助教授による招待講演では、知識を統合化することにより、複数の研究仮説の矛盾点を解決する新しい知識を生み出した、自身のシナプス可塑性に関する研究が紹介された。

休憩を挟んで後半は、プロジェクトメンバーによる講演が行われた。ステイーブン・クレイネス助教授は、研究者や開発者が明確に定義された言葉や意味を共有し、知識を互いに探索しやすくするためのシステムを開発している。大武美保子講師は、運動計測から神経系のミクロからマクロまでの状態を計算することが可能なヒト神経系シミュレータを開発している。9月より参加する牧野貴樹研究員は、ヒトの知性を機能面から理解することを目指して、個体間コミュニケーションの数理モデルの研究を行っている。



シンポジウム講演の様子：左上、小宮山総長；右上より左下まで順に、桐野、高木、黒田、クレイネス、大武、牧野（敬称略）

シンポジウムの後、山上会館食堂「御殿」において懇親会が行われた。応援部リーダー部員全員がつめかけ、エールを送った。熱気の高まった会場において、参加者同士活発な議論と交流が行われた。学術統合化プロジェクトに関する情報は、HPを参照されたい。

(HP:<http://www.scint.jp/>)

問い合わせ先：学術統合化プロジェクト（ヒト）  
内線63982



懇親会でエールを送る東大応援部員（左）と小宮山総長（右）

大学院法学政治学研究科・法学部、大学院公共政策学教育部

**法学政治学研究科・法学部、公共政策学教育部で留学生見学旅行を実施**

5月19日（木）・20日（金）の2日間、法学政治学研究科・公共政策学教育部合同で留学生の軽井沢・草津見学旅行を実施した。参加者は、留学生28名、日本人チューター1名、引率の教職員4名の計33名であった。2日間とも快晴に恵まれ、行く先々で美しい景観を満喫した。

8時45分に大型バスで本郷キャンパス正門前を出発し、軽井沢インタープラザで釜飯を食べた後、万平ホテルに到着した。早速、目にも鮮やかな新緑の中を軽井沢銀座まで散策し、ウィンドーショッピングを楽しんだ。その後、鬼押出し園見学を終えて、宿泊地の草津に向かった。草津の温泉街で、熱の湯・湯もみショーを見学し、数名は実際に湯もみを体験した。夕食後の懇親会では、チーム対抗ゲーム大会を催したところ、予想以上の盛り上がりを見せ、解散後、みな疲れを癒すかのごとく温泉に向かって行った。



熱の湯・湯もみショーで湯もみ体験する留学生たち

翌朝は、予定を繰り上げて8時半にホテルを出発して白根山を見学。エメラルドグリーンの水をたたえた美しい火口湖「湯釜」をくっきり見ることができた。下山後、浅間酒造で各自お土産を買い、高崎で手打ちうどんを食べた後、だるま絵付けを体験した。留学生たちは、思い思いにだるまの顔を描いていた。予定よりも早く16時半に大学に到着し、全員笑顔で解散した。

参加者に印象に残ったことを尋ねると、白根山、だるま絵付け体験、鬼押出し園、温泉、懇親会という順に回答が多かった。日本の美しい自然と文化に触れ、共通の体験を通じて親睦も深まり、みな楽しく有意義な時間を過ごすことができた。



白根山の火口湖「湯釜」にて記念撮影

大学院工学系研究科・工学部

**2005年日・EU市民交流年 記念シンポジウム「高等教育分野での日本・EU交流の意義と可能性ー日本・EU留学生交流パイロット・プロジェクトの経験を踏まえてー」**

5月10日（火）午後、工学系研究科武田ホールにて標記シンポジウムが開催された。

副題にある「日本EU留学生交流パイロットプロジェクト」は、欧州委員会と日本政府が2002年に開始したもので、これまで2つのプロジェクトが実施されている。双方とも、東京大学工学系研究科が日本側代表を務めたもので、建築と都市に関するAUSMIPプロジェクトは、ミュンヘン工科大学等欧州4大学と東京大学工学系研究科、新領域創成科学研究科を含む日本の3大学4研究科から成る新たなコンソーシアムによって、また、精密機械工学に関する「DeMaMech」プロジェクトは、デルフト工科大学等欧州4大学と東京大学工学系研究科を含む日本の4大学から成るコンソーシアムによって実施されている。AUSMIPは2003年に、DeMaMechは2004年に学生の交換を開始し、プロジェクトに参加した欧州の大学と日本の大学は、これまでに合わせて100名以上の学生を正規学生として受入れ、その成果は双方ともに極めて大きなものである。

今回のシンポジウムは、この二つのプロジェクトの成果と経験を、広く高等教育分野での国際交流、とりわけ日本EU間の交流に関心のある方々と共有し、更にこれをどのように発展させられるかを議論することを目的として工学系研究科主催で開催された。

当日は、平尾公彦工学系研究科長の開会挨拶、来賓を代表して文部科学省高等教育局学生支援課の加藤敬国際交流企画室長、駐日欧州委員会代表部のMichael Reiterer公使の挨拶に引き続き、2つのプロジェクトそれぞれの関係者からその内容と成果について報告があっ



た。シンポジウムの後半のパネルディスカッションでは、この報告を踏まえ、高等教育分野での日本EU間の交流の展開方法について議論が交わされ、今回のパイロットプロジェクトのような修士課程レベルでのまとまった数の、しかも相互に均衡の取れた受入れと派遣が、それぞれの大学における教育にプラスの影響を与え得たことが確認され、更にこれを持続性のあるものにしていく上で、大学内でのマネジメント体制の整備、両政府からの支援の重要性等が指摘された。

「2005年日・EU市民交流年」交流イベントでもあった本シンポジウムの終了後に開かれたカクテルパーティーには、このプロジェクトに参加した数十名の欧州留学生、日本人学生も参加し、また欧州委員会寄託図書館でもある東京大学総合図書館国際資料室から提供されたEU関連資料等を手に取りつつ、図らずも武田ホールホワイエが日本EU間の新たな交流の場となった。



パネルディスカッションの様相。パネラー左より安藤正雄教授（千葉大学）、ハンス・ランゲン教授（デルフト工科大学）、菊池成朋教授（九州大学）、ブルーノ・ピータース教授（サンリュック建築大学）、太田浩講師（一橋大学）

## 大学院総合文化研究科・教養学部 駒場キャンパス1号館時計台の一日限定公開

駒場の学生相談所は、駒場キャンパス1号館の3階、時計台の真下にあります。ロケーションのせいか、たびたび「時計台には上れないでしょうか？」という相談がよせられます。特に駒場祭が近くなると、そういうことを考える学生さんが多いようです。学生相談所としても「よろず相談所」をうたっている以上、こうした期待にはできるだけお応えしたいと思い、1日限定の時計台公開日を、年に1回設けています。5年ほど前から開催していますが、毎回500人を超える方がいらしています。今年は6月16日（木）に時計台を公開し、700人強の方にご参加いただきました。



時計台内部を見学する学生

普段の学生相談所は、上述したように「よろず相談所」として、学生生活のサポートをしています。相談内容はさまざまで、人間関係や学業上の悩みもあれば、進学先や将来についての相談もあります。また心理テストを受けてみたいといった要望も受け付けています。駒場Iキャンパスだけでなく、駒場IIキャンパスの学生の相談も歓迎しています。

スタッフは常勤の助手のほかに、プロの心理カウンセラー（非常勤）5名と、事務員（非常勤）1名、TA2名の計9人体制です。カウンセラーのプロフィールは『学生相談所だよりNo.11』やホームページで紹介しています。

学生相談所の利用者数は、ここ10年で大きく増えています。より多くの学生さんのニーズに応えるため、時計台公開の他にも、学習相談、グループによる心理教育プログラム、講演会などのイベントを行っています。また受付には「恋愛」「キャリア」「友達が悩んでいたら」といったテーマの各種パンフレットや、進路やメンタルヘルスの本、写真集や絵本なども用意しています。図書の貸出もしていますので、ぜひ一度、お気軽にお立ち寄り下さい。



学生相談所内の様子

大学院総合文化研究科・教養学部 学生相談所  
<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/soudanjo-komaba/>  
 Tel/Fax: 03-5454-6186（内線4-6186）  
 E-mail: soudanjo-komaba@park.itc.u-tokyo.ac.jp

## 大学院教育学研究科・教育学部

### 教育学部附属中等教育学校で「東京大学探検」実施

4月15日（金）に、教育学部附属中等教育学校の第1学年生徒120名（男子60名、女子60名）が、総合学習入門1「東京大学探検」を実施した。

生徒は、24のグループに分かれて、赤門、竜岡門、弥生門、正門、三四郎池でチェックを受け、本郷キャンパスをくまなく探索した。その中で、各グループはテーマを見つけて調べた。

午後は、総合研究博物館を見学した。開催中の「Systema Naturae」では田賀井篤平教授、高槻成紀助教授より、「メディアとしての建築—ピラネージからEXPO'70まで」では、菊池誠教授より、詳しくわかりやすい説明を受けることができた。

また、たまたま生徒と会った新領域創成科学研究科の吉田恒昭教授は研究室に生徒を案内して見学させて下さった。このことに生徒はとても感動していた。さらに、生徒の中には教育学部長室を訪れ、佐藤学学部長にインタビューする子もいた。

15時過ぎに、安田講堂前で記念撮影を行い解散した。生徒たちは、充実した1日を本郷で過ごすことができた。

なお、5月19日（木）に60名を越える保護者が参加した発表会で成果を発表した。汐見稔幸学校長は、生徒の新発見を讀え、今後6年間の学校生活で、この東大探検の経験を活かして研究を進めるよう生徒を激励した。



高槻助教授の話に熱心に聞く東大附属の生徒たち

## 大学院教育学研究科・教育学部

### 教育実習生に対するオリエンテーションの開催

4月18日（月）から三日間、本年度教育実習を行う学生を対象に平成17年度教育実習オリエンテーションが開催された。今年度の参加者は119名。実習教科は国語、社会、数学、保健、中国語など様々である。母校で実習をする学生が多いが、内40名は6月あるいは9月に3週間、附属中等教育学校で実習を行う予定。



教育実習オリエンテーションの様子

オリエンテーションの第一日目は文学部で行われたが、翌4月19日（火）、20日（水）の二日間は、例年どおり中野区南台の教育学部附属中等教育学校が会場となった。附属中等教育学校では今年度より全ての教室の机をコの字型に並べて、生徒主体の「学びの共同体」を目指し教育活動を行っているが、まず草川副校長より新しい授業方法の説明と、カリキュラムと学級経営についての話があった。三橋副校長からは「人はどうしても自分の受けてきた授業のイメージから抜け出せないものだが、色々なやり方があるのだから、様々な授業を見て色々なチャレンジをしてほしい。また教育を内側から見てほしい」というお話があり、また、教育学部秋田教授が教育実習生の2週間を追うビデオを見せながら指導をされた。

最終日は授業観察と学習指導案作成演習。実習生は緊張した面持ちで各教科に分かれ、3つの授業を観察した。三日間のオリエンテーションを終えた実習生の感想は次のようなものがあった。「どの授業でもグループに分かれる作業があり、教室に一体感を感じた」「特に机の並べ方、グループの作り方などが楽しい授業作りに活かされているのが新鮮だった」「期待と不安を胸に精一杯教育実習に取り組みたい」等。なお、草川副校長からは実習生に対して「実習前の教案準備が実習生の学力です。頑張ってください」とのメッセージが届いている。

**医科学研究所  
第32回医科研創立記念シンポジウム開催  
される**

今年で32回目となる医科研創立記念シンポジウムが6月1日（水）13時から医科学研究所講堂において開催された。

上述シンポジウムは、医科学研究所が昭和42年に伝染病研究所から改組されたのを記念して昭和49年より毎年6月1日前後に開催されてきた。

今回は、本研究所が、基礎医科学研究から先端医療研究までを、遂行実践する組織であることから、この分野で先進的研究を展開している所内の先生方とともに所外の先生方をお招きして「トランスレーショナルリサーチ」というテーマに基づいてプログラムが構成された。



山本雅所長による開会の辞

山本雅所長の開会の辞に引き続き、本研究所腫瘍抑制分野の澁谷正史教授による「VEGFによる血管新生の分子機構とその応用」、同じく臓器細胞工学分野の田原秀晃教授による「がんペプチド・ワクチン療法のトランスレーショナル・リサーチ」、20分の休憩をはさみ、ゲノムシークエンス解析分野の中村祐輔教授による「ゲノム研究からゲノム医療へ」、そして、名古屋市立大学附属病院長・名古屋市立大学大学院医学研究科臨床分子内科学の上田龍三教授による「がん診療における抗体療法」、最後に分子細胞生物学研究所細胞増殖研究分野の鶴尾隆教授による「がん分子標的治療研究の展開」について、各々40分間の講演が行なわれた。

詳しい講演内容やプログラムについては、医科学研究所ホームページで公開しているのでご覧になっていただきたい。

(<http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imswww/index-j.html>)

講演会場の医科学研究所講堂は、例年のことであるが、所内外からの多くの参加者で満席となり、各講演を熱心に聴講し、本研究所シンポジウムへの関心の高さが窺わ

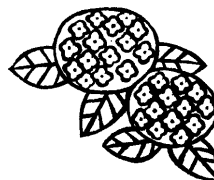
れた。

医科研シンポジウムに先立ち、前日の5月31日（火）13時30分から講堂で医科研に所属する若手研究者による1分間スピーチ「フラッシュ・トーク」（医科学研究所研究成果発表会）が昨年に引き続き開催され、若手研究者が熱心に研究の成果報告をおこなった。また、5月31日（火）～6月1日（水）の2日間アムジェンホールにてポスター発表会がフラッシュ・トークと連動する形式で行なわれた。

この創立記念のイベントには延べ300人が参加し、そして、66件のポスター発表の中から投票により最優秀ポスターが選ばれ、シンポジウム終了後の医科研恒例の野外パーティーにおいて表彰がなされた。



表彰式の様子





## 分子細胞生物学研究所 分子細胞生物学研究所参与会開催

分子細胞生物学研究所（分生研）の在り方について所外の方からアドバイスをいただく機会として参与会を設け、5月25日（水）に第一回の会合を開催しました。学外から今泉厚氏（帝人ファーマ取締役）、大石道夫氏（かずさDNA研究所長）、渡辺公綱氏（産業技術総合研究所生物情報解析研究センター長）、学内から桐野豊副学長、浅島誠教授、長澤寛道教授、山本正幸教授、清水孝雄教授にご参加いただき、分生研教授会メンバーと懇談しました。宮島篤所長が分生研の概要について説明した後、所外参加者より分生研の活動、体制、将来像等についての意見を伺いました。その内容は概ね次のようです。

分生研では様々な基礎生物学の研究が行われているが、それぞれの研究のレベルは高く国際的にも評価されている。そうした質の高い研究を核として他部局との連携によるCOEなどの提案ができるようにしたらよい。また、深刻なスペース問題を抱えているが、任期制や評価制度など導入し、小さな組織の利点を活かした運営を行なっている。その他研究所の将来像などについて様々な貴重なご意見をいただきました。

## 分子細胞生物学研究所 分子細胞生物学研究所所内発表会と新人歓迎会の開催

6月1日（水）に分生研所内発表会が開催されました。これは研究室間の交流を図る研究発表会で、学生が主体的に企画します。各研究室代表の大学院生が研究成果を発表し、各研究室より選出された学生審査員が研究内容およびプレゼンテーションの仕方などを採点して、優秀者を表彰します。今年度は情報伝達研究分野の博士課程3年生の吉松剛志君が『STAT3による神経系前駆細胞の未分化性制御』の発表にて優秀賞に選ばれました。

研究発表会後には、恒例の分生研新人歓迎会が生協食堂にて開かれ、所員が一堂に会して新人紹介が行なわれました。その会場で、宮島篤所長より吉松君へ優秀賞が贈られました。また、（財）応用微生物研究奨励会の木下祝郎理事長より生体有機化学研究分野の修士課程2年生の細田信之介君に应用研究特別賞が贈られました。



分生研所内発表会

## 総合研究博物館 東京大学コレクションXX 『関野貞アジア踏査—平等院・法隆寺から 高句麗壁画古墳へ』展の内覧会・レセプション開催される

6月4日（土）から9月4日（日）まで、総合研究博物館新館で特別展示『関野貞アジア踏査—平等院・法隆寺から高句麗壁画古墳へ』展が開催されます。

オープニングに先立ち、6月2日（木）に当館で内覧会・レセプションが開催され、森巨元総長はじめ学内外から多数の出席者があり、盛況のうちに終了しました。

特別展示の詳細については、22ページのお知らせをご覧ください。



「関野貞アジア踏査—平等院・法隆寺から高句麗壁画古墳へ」展を担当した西秋助教授による挨拶の様子

留学生センター

国立大学法人留学生センター留学生指導担当研究協議会が開催される

留学生センターでは、6月7日（火）、医学部総合中央館3階会議室（333号）において国立大学法人留学生センター留学生指導担当研究協議会を開催した。

この協議会は、国立大学法人の留学生センターの主として留学生指導担当部門の教員が一堂に会して、留学生指導教育体制等の当面する諸問題について研究することを目的に毎年開かれているもので、今年は50大学から56名の教員、本学の留学生受入れに伴う専門教育教員等33名が参加した。

飯塚克介留学生センター長の挨拶のあと、初めに、文部科学省高等教育局学生支援課専門職坂本秀敬氏による「21世紀の留学生政策」と題する講演、外務省領事局外国人課企画官山口登氏による「海外交流審議会答申」について、元東京入国管理局長、国際研修協力機構・理事水上洋一郎氏による「第3次出入国管理基本計画」について、最後に、財団法人アジア学生文化協会事務局次長白石勝己氏による「外国人学生等の受入れに関する提言」についての4講演があり、講演ごとに質疑応答が行われ、約4時間、実りある研究協議会が持たれた。

その後、キャンパス内にある山上会館にところを移して懇談会が開かれ、和やかな雰囲気の中に、会は終了した。



研究協議会の風景

原稿募集

「学内広報」に学内の情報をお寄せください。

- ・文字数800字以内（写真がある場合は文字数を控えるにしてください。）
- ・写真には、キャプション（説明文）を添えてくださるようお願いします。
- ・原稿は電子データで下記まで、メールまたは学内便でお送りください。

送付先 東京大学総務部広報課  
 TEL：03-3811-3393 内線：22031、82032  
 FAX：03-3816-3913  
 E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

原稿の締切は各月第1・3水曜日、配付は翌々週の火曜日です。ただし、該当日が祝日の場合を除きます。

平成17年度の学内広報の発行スケジュール  
[http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html)

「噴水」「窓」のコーナーにご意見を

「学内広報」には、みなさんから投書を寄せていただく欄として「噴水」、東京大学と社会との連携・協力情報を紹介するための欄として「窓」が設けられています。これらの欄への投書要領は次のとおりです。

「噴水」

- 1 本学における教育・研究活動等に関する意見を述べたものであること。
- 2 個人の投稿で所属・氏名を明記したものであること。
- 3 他者への非難・攻撃を含まないものであること。

「窓」

「東京大学とその周辺地域の歴史」、「学外機関より本学構成員への表彰」、「学外の方からの東京大学に関する意見」など、東京大学と社会との関係に関する情報であること。

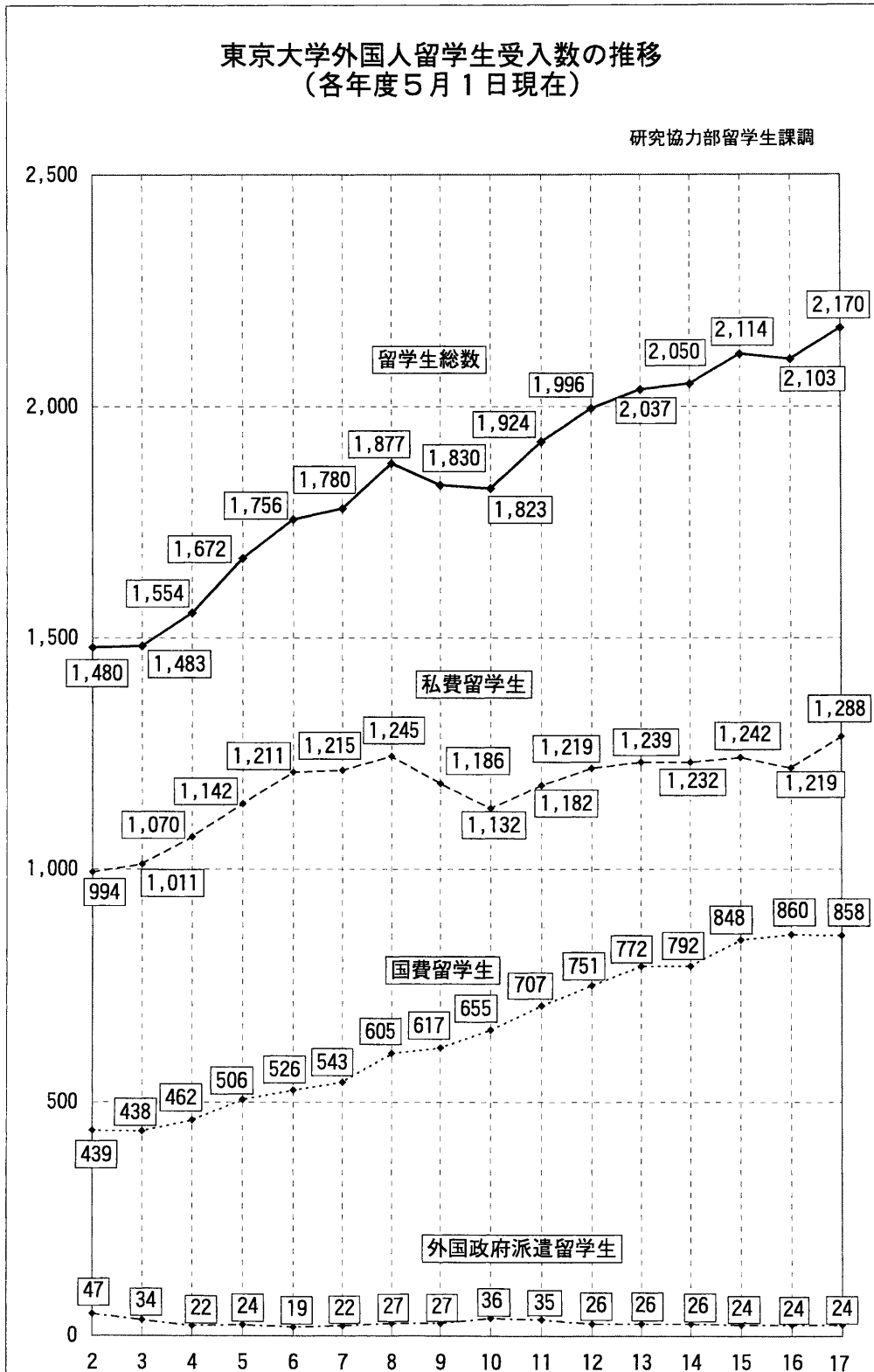
以上の要件をそなえるものの中から、広報委員会が適当とするものを、適宜、掲載します。



研究協力部

平成17年度外国人学生数－国費外国人留学生数858人、私費外国人留学生数1,288人、外国政府派遣留学生数24人、在日外国人学生数136人－

本学では、毎年5月と11月の年2回、同月1日現在の外国人学生数を調査している。これをもとに各年度5月1日現在の外国人留学生数の推移を示した。また、本年5月1日現在の外国人学生数は次頁以降のとおりである。



平成17年度 外国人学生数

平成17年5月1日現在

区分	学部				大学院				研究所等		合計			
	学生		研究生等		修士課程		博士課程		大学院研究生		研究生			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
国費(a)	75	47	0	0	136	80	246	120	94	60	0	0	551	307
外国政府派遣	122	0	0	0	216	0	366	0	154	0	0	0	858	0
外国政府派遣	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
外国政府派遣	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
外国政府派遣	5	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	6	2
外国政府派遣	6	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	8	0
外国政府派遣	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
外国政府派遣	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
外国政府派遣	9	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	10	1
計(b)	10	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	11	0
私費(c)	18	3	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	20	4
小計(d)((a)+(b)+(c))	21	0	0	0	2	2	1	1	0	0	0	0	24	4
(在留資格「留学」の者)	49	36	18	17	175	154	358	247	82	82	2	4	687	542
私費(e)	85	0	35	35	329	605	605	367	176	142	6	5	1,229	0
小計(d)((a)+(b)+(c))	142	86	18	17	312	235	605	367	176	142	2	4	1,258	853
(在留資格「留学」の者)	228	0	35	35	547	972	972	6	318	6	5	2,111	0	0
私費(e)	7	1	2	1	5	4	10	12	5	10	2	0	31	28
(在留資格「留学」以外の者)	8	0	3	3	9	22	22	15	15	2	0	0	59	0
外国人留学生合計(f)	149	87	20	18	317	239	615	379	181	152	4	4	1,289	881
((d)+(e))	236	0	38	38	556	994	994	8	333	8	5	2,170	0	0
在日外国人学生(g)	72	13	0	0	21	7	18	4	0	1	0	0	111	25
外国人学生	85	0	0	0	28	22	22	1	1	0	0	0	136	0
総計(f+g)	221	100	20	18	338	246	633	383	181	153	4	4	1,400	906
	321	0	38	38	584	1,016	334	8	334	8	5	2,306	0	0

学部及び研究科等別外国人留学生数

平成17年5月1日現在

区分	学部				大学院								合計		
	学生		研究生等		修士課程		博士課程		外国人研究生等		大学院研究生			小計	
	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費			
法学部	6	6											6	6	12
医学部															
工学部	37	32		8									37	40	77
文学部	4	2											4	2	6
理学部	3	6											3	6	9
農学部	2	2		3									2	5	7
経済学部	6	9											6	9	15
教養学部	62	56		27									62	83	145
教育学部															
薬学部	2	1											2	1	3
小計	122	114		38									122	152	274
人文社会系研究科			11	24	17	58	25	26	1				53	109	162
教育学研究科			4	15	9	22	3	7					16	44	60
法学政治学研究科			9	13	4	11	11	6					24	30	54
経済学研究科			7	3	2	13	4	2					13	18	31
総合文化研究科			25	36	28	85	25	15	2				78	138	216
理学系研究科			8	7	14	21	5	1	1				27	30	57
工学系研究科			83	109	157	204	33	60	2				273	375	648
農学生命科学研究科			14	37	42	62	10	13	1				66	113	179
医学系研究科			4	16	25	87	9	21					38	124	162
薬学系研究科			2	5	5	5	2	2					9	12	21
数理科学研究科			2	2	9	4	1		1				12	7	19
新領域創成科学研究科			21	29	24	19	10	7					55	55	110
情報理工学系研究科			17	22	27	30	10	7					54	59	113
学際情報学府			5	13	3	7	6	12					14	32	46
公共政策学教育部			4	9									4	9	13
小計			216	340	366	628	154	179	8				736	1,155	1,891
医科学研究所														2	2
地震研究所															
生産技術研究所														3	3
分子細胞生物学研究所															
物性研究所															
海洋研究所															
先端科学技術研究センター															
小計														5	5
合計	122	114		38	216	340	366	628	154	179	8		858	1,312	2,170

(注)①外国人政府派遣留学生は、私費の欄を含む。  
 (注)②法学政治学研究科専門職学位課程学生1名及び公共政策学教育部専門職学位課程学生13名は、修士の欄を含む。



## 全学生数に対する外国人留学生数の比率

事項	A 全学生数 (人)	B 日本人学生数 (人)	C 外国人留学生 (人)	C/A 比率	平成16年度 比率
学部レベル	14,893	14,560	274	1.84%	1.74%
大学院レベル	13,814	11,864	1,896	14%	14%
計	28,707	26,424	2,170	7.56%	7.46%

※全学生数欄には在日外国人学生を含む。

※研究所に所属する外国人研究生は、大学院レベルを含む。

※比率欄の数は四捨五入。

# 国又は地域別外国人留学生数

平成17年5月1日現在

国名又は地域名	国				私費				合計						
	学部		大学院等		学部		大学院等		学部		大学院等		総計		
	学生	研究生等	修士	博士	研究生等	修士	博士	研究生等	学生	研究生等	修士	博士			
<b>アジア</b>															
パキスタン															
インド															
ネパール															
バングラデシュ															
スリランカ															
ミャンマー															
タイ															
マレーシア															
シンガポール															
インドネシア															
フィリピン															
中国(香港)															
韓国															
モナコ															
オーストラリア															
中国															
カンボジア															
マレーシア															
タイ															
台湾															
<b>中近東</b>															
トルコ															
レバノン															
イラン															
アフガニスタン															
パレスチナ															
<b>アフリカ</b>															
エジプト															
ナイジェリア															
チュニジア															
マリ															
セネガル															
ケニア															
コンゴ民主共和国															
ナイジェリア															
セネガル															
マリ															
<b>小計</b>															
<b>合計</b>															

国又は地域別外国人留学生数

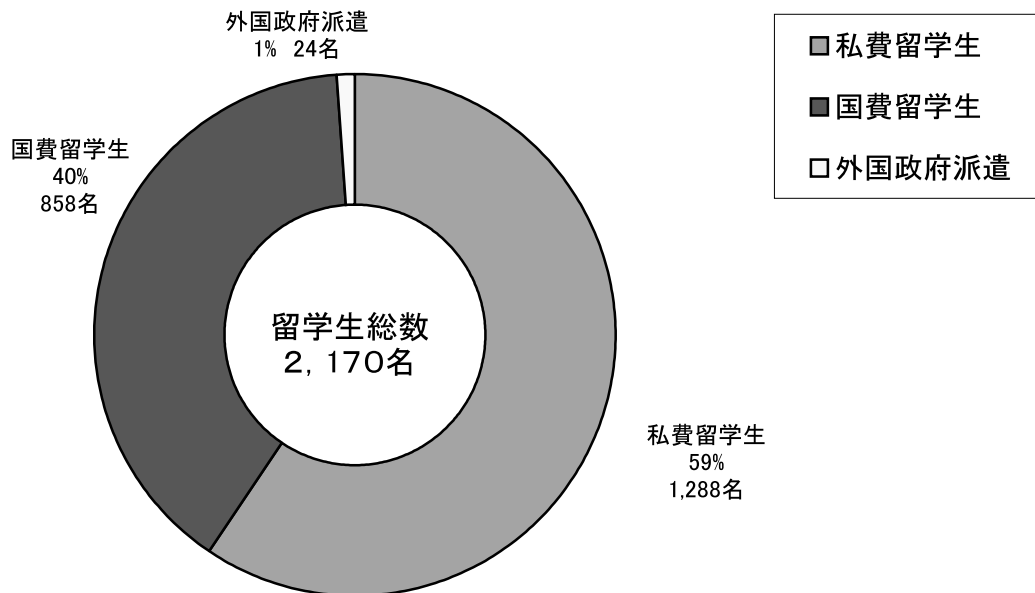
平成17年5月1日現在

国名 又は 地域名	国			私			計			総計
	学部		大学院等	学部		大学院等	学部		大学院等	
	学生	研究生等	修士 博士 研究生等	学生	研究生等	修士 博士 研究生等	学生	研究生等	修士 博士 研究生等	
<b>オセアニア</b>										
オーストラリア	5	1	3	6	15	1	1	1	1	4
ニュージーランド	1	3	1	1	6	2	1	3	2	1
ハワイ						1		1		1
小計	6	4	4	7	21	3	1	5	6	7
<b>北米</b>										
カナダ		2	5	1	8					
アメリカ合衆国	6	6	6	7	19	1	7	3	7	4
小計	8	8	11	8	27	1	7	5	10	13
<b>中南米</b>										
メキシコ			5	1	6			1		6
エルサルバドル				1	1					1
コスタリカ				1	1					1
ブラジル	1	8	5	5	19			2	10	7
パナマ	2			2	2			1		1
カリブ			1	1	1			1		1
アルゼンチン			3	1	4			1		3
ペルー			1	1	1			1		1
ボリビア		2	2	2	4			1		2
ベネズエラ		2	1	2	3			2		2
ホンジュラス			2	2	2			2		2
ドミニカ	3	12	21	12	48	1	1	4	1	17
小計	3	12	21	12	48	1	1	2	17	25
<b>ヨーロッパ</b>										
フィンランド								1		1
スウェーデン								4		4
ノルウェー	2			1	3			1		2
デンマーク			1	1	1			2		2
イギリス	1	1	1	4	6			3	1	4
ベルギー								2		2
ルクセンブルク								2		2
オランダ	1	1	1	2	4			1		1
ドイツ	1	6	4	4	11			5		6
フランス	7	7	7	7	21			2		9
スペイン	1	2	3	3	6			1		4
ポルトガル	1	1	2	2	3			1		1
イタリア			1	4	5			1		2
ギリシャ	1	2	4	4	3			1		2
オーストリア	1	4	4	4	8			1		3
スイス	1	2	2	3	5			1		3
ポーランド	3	1	1	2	5			3		2
チェコ			1	1	2			1		1
ハンガリー	3	1	1	3	8			1		2
小計	3	1	1	3	8			1		3
<b>その他</b>										
ロシア								1		1
中国								4		4
韓国								6		6
台湾								11		11
香港								9		9
マカオ								4		4
インド								2		2
インドネシア								1		1
タイ								2		2
シンガポール								1		1
マレーシア								3		3
フィリピン								5		5
ジャバ								2		2
小計								25		25
<b>合計</b>										
学部										
大学院等										
合計										
学生										
研究生等										
修士										
博士										
研究生等										
合計										

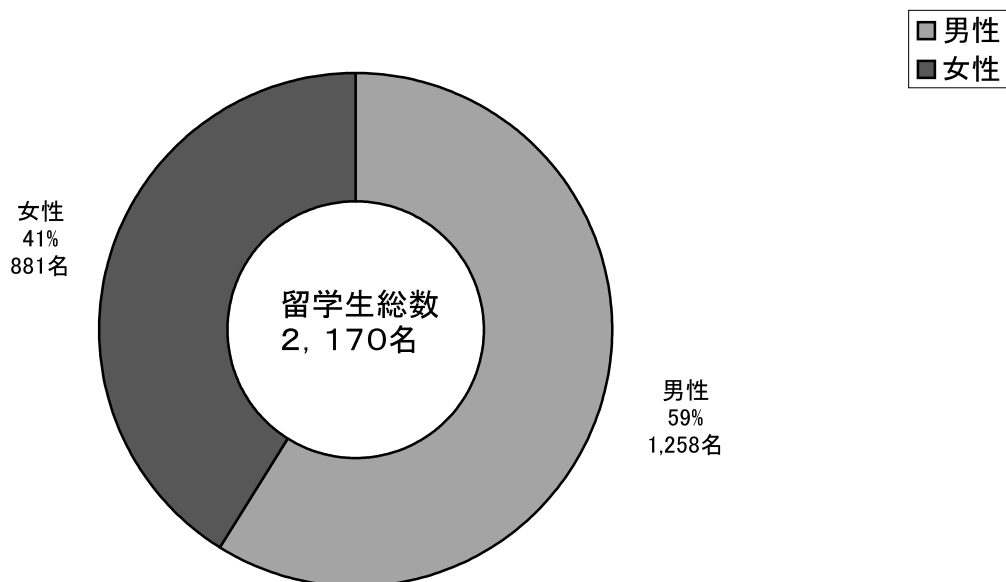




### 平成17年度外国人留学生種別内訳

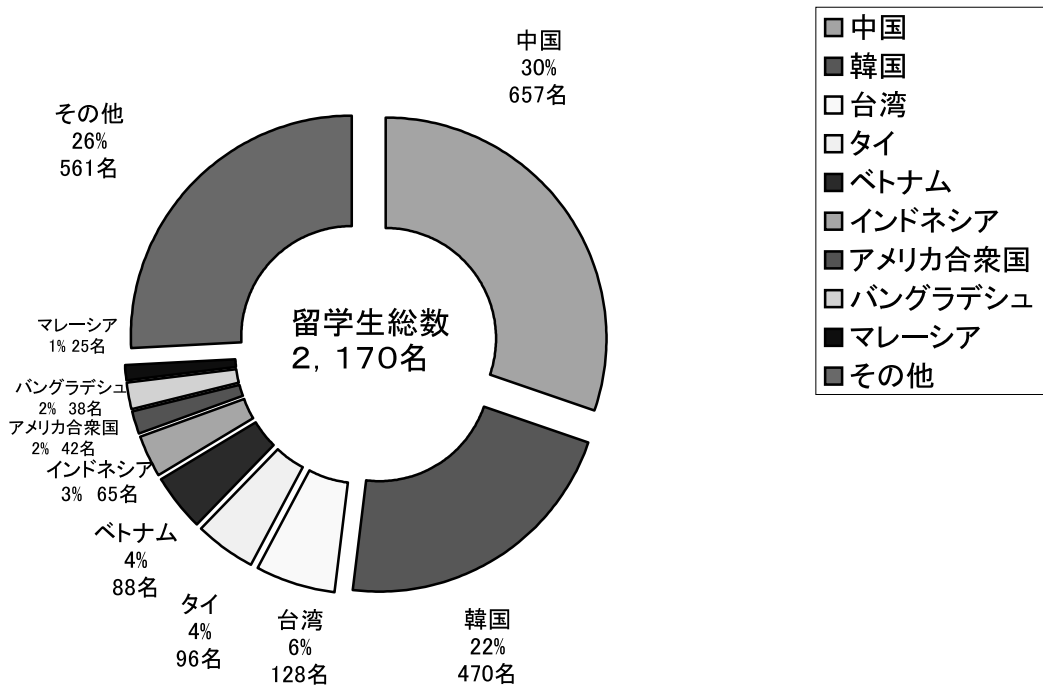


### 平成17年度外国人留学生男女別内訳

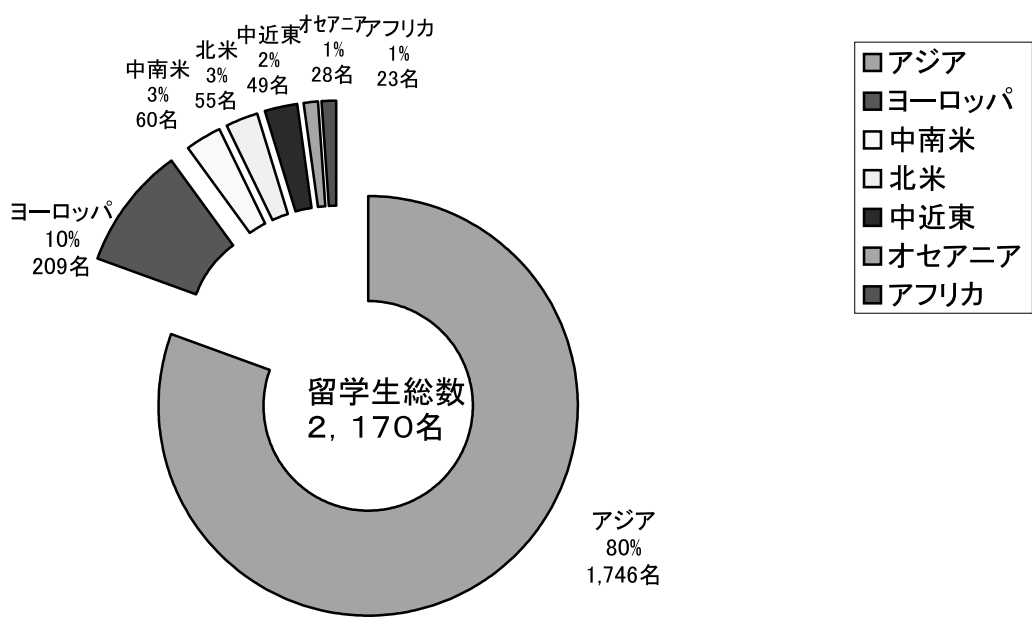


平成17年5月1日現在

### 平成17年度外国人留学生国籍別内訳



### 平成17年度外国人留学生地域別内訳



平成17年 5月1日現在



## 学生部

### 学生表彰「東京大学総長賞」の推薦受付について

募集

本学の学生を対象として、学業、課外活動、各種社会活動、大学間の国際交流等の各分野において、「優れた評価を受けた」「優秀な成績を収めた」「本学の名誉を高めた」などの顕著な功績のあった個人又は団体に、総長が表彰を行う「東京大学総長賞」が平成14年度から設けられています。

この表彰は、本学教職員・学生からの推薦に基づき、「東京大学学生表彰選考委員会」（以下「選考委員会」という。）が選考にあたり総長が表彰するものです。

選考委員会では、推薦された候補者の中からその内容を審査のうえ、「東京大学総長賞」として相応しいものが決定されます。

平成17年度第1回（秋）の推薦受付について以下のとおりご案内します。

1. 提出物：別紙様式1（個人）又は別紙様式2（団体）に必要事項を記入し、参考資料等を添付してください。また、書類の提出にあたってはホームページ上の「推薦書類の提出について」を参照してください。
  2. 推薦基準：以下のとおりです。
  3. 提出期限：9月5日（月）16時まで（必着）
  4. 選考結果：9月上旬に推薦者及び選考対象者へご連絡いたします。
  5. 授与式：10月中旬に実施を予定しています。日程の詳細は決まり次第お知らせします。
- ◎詳細については、ホームページをご覧ください。  
[http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/h12\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/h12_j.html)

（提出先及び問い合わせ先）

学生部学生課学生生活チーム（担当：大八木・宮内）  
内 線：22529/22514  
e-mail：gakuseiseikatsu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

### （東京大学学生表彰「東京大学総長賞」の推薦基準）

- (1) ①学業において、研鑽に励み、他の学生の範となった個人又は団体  
②学業において、学界等により優れた評価を受け、本学の名誉を高めた個人又は団体
- (2) 課外活動において、国内外の各種スポーツ、競技、演奏、展示、発表等で優秀な成績を収め、本学の名誉を高めた個人若しくは団体又は課外活動を支援し、課外活動の充実と振興に著しい貢献をした個人若しくは団体
- (3) 環境保全、災害救援、社会福祉、青少年育成、海外援助協力等の各種社会活動において、活動実績が認められ、他の学生の範となった個人若しくは団体又は社会的に優れた評価を受け、本学の名誉を高めた個人若しくは団体
- (4) 大学間の国際交流において、相互理解と友好関係を深め、本学の国際交流の発展に著しい貢献をした個人又は団体
- (5) その他、これらに準ずるもので、「東京大学総長賞」に相応しい貢献があった個人又は団体

上記基準による推薦者については、次のとおりとする。

基準（1）①

学部学生については学部長

大学院学生については研究科長・教育部の部長

基準（1）②及び基準（2）～（5）

自薦、他薦を問わない。

また、在学中の学業、課外活動、社会活動等の評価、活動実績等が上記基準に該当する者は、卒業又は修了後1年以内に限り選考の対象とする。



平成16年度総長賞授賞式の様子

〔参考〕平成16年度学生表彰  
「東京大学総長賞」受賞者

授与式：第2回 平成17年3月24日（木）  
15:30～18:30  
場 所：大講堂

（個人の部）

- 松本 翔（教養学部文科一類、陸上運動部）：  
21年ぶり箱根路を走る「東大ランナー」  
Vo Trong Nghia（工学系研究科博士課程1年）：  
ベトナム古民家と都市における風環境の研究と設計活動
- 佐藤 政達（法学部4年）：法学部成績優秀者  
村上 尚加（医学部5年）：生命科学研究における貢献  
大栗 真宗（理学系研究科博士課程3年）：  
重力レンズ現象を用いた宇宙の構造進化の  
解明
- 森田 健司（経済学部4年）：経済学部成績優秀者  
千住 淳（総合文化研究科博士課程3年）：  
自閉症研究における卓越した業績とそれ  
に対する国際的評価、及び医療保健現場への  
社会貢献
- 菅谷 拓生（教養学部4年）：  
途上国の金融と公的機関の効率性の研究  
戸田 幸伸（数理科学研究科博士課程1年）：  
数理科学研究科成績優秀者

（団体の部）

- 東京大学柏葉会合唱団：  
高水準学生合唱団としての演奏と社会貢献



医科学研究所  
研究所ネットワーク国際シンポジウムの開催  
について—Shirokane International  
Symposium—

シンポジウム・講演会

国立大学法人の6附置研究所による、研究所ネットワ  
ーク国際シンポジウムを下記により開催致します。

日時：7月22日（金）～24日（日）

場所：医科学研究所1号館講堂

■参加費無料

■問い合わせ先

医科学研究所 学術連携推進室

E-mail：LOCUS@ims.u-tokyo.ac.jp

（参照）

<http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imswww/Event/symposium050722-j.htm>

テーマ：ゲノムシステム医科学—Bench to Bedside—  
癌、感染症、免疫疾患等の発症機構の理解及び  
これらの疾患治療における創薬のアプローチが  
討論される予定

招待講演者：

田中耕一（島津製作所）、Lisa Coussens  
（UCSF, USA）、David, R. Cox（Perlegen  
Sci, USA）、Gideon Dreyfuss（Penn U, USA）、  
William J. Muller（McGill U., Canada）、Zihe  
Rao（CAS, China）、Renee Reijo-Pera  
（UCSF, USA）、Axel Ullrich（Max-Planck,  
Germany）、Jean Louis Virelizier（Pasteur,  
France）、John N Weinstein（NIH, USA）

各研究所からの講演者：

中内啓光、中村義一、古川洋一、三木裕明、宮  
野悟、森本幾夫（以上東大医科研）、野島 博  
（阪大微研）、高尾敏文（阪大蛋白研）、下遠野  
邦忠（京大ウイルス研）、村上清史（金沢大が  
ん研）、吉村昭彦（九大生医研）、大学院生及び  
博士研究員28名

主 催：東京大学医科学研究所

共 催：大阪大学微生物病研究所、大阪大学蛋白質研  
究所、京都大学ウイルス研究所、金沢大学がん研  
究所、九州大学生体防御医学研究所、国立大学  
附置研究所・センター長会議

後 援：日本製薬団体連合会、ノバルティスファーマ株  
式会社、アムジェン株式会社

## 生産技術研究所 第3回東京大学学生発明コンテスト

### 募集

生産技術研究所では昨年に引き続き発明コンテストを行います。本学の学生であればどなたでも参加できますので、皆様ふるって応募してください。

**募集趣旨：** 知的生産活動により得られた新規アイデアを個人の内に秘めておくばかりでなく、新規性の権利を明確に主張できることが、これからの知財立国を支える研究者に要求されています。研究者としての第1歩を踏み出したばかりの柔軟な思考を持つ学生諸君に、そのような権利主張を行うトレーニングの機会を与えることを目的として発明コンテストを企画しました。このような権利主張の機会を通じて、現在は漠然としたイメージしか抱かれていないであろう、知的財産権の理解を深めていただくことを期待しています。

**応募資格：** 本学の学生（学部学生・大学院学生）

**応募期間：** 7月1日（金）～9月15日（木）（必着）

※応募用紙は6月中旬から配布いたします。

**日 程：** 10月中旬

書類審査終了 予備審査結果の通知

11月26日（土）

本審査 プレゼンテーション

12月上旬

審査結果の通知

1月12日（木）

表彰式

**発明内容：** 発明の分野や内容、実施の度合は問いません。但し、「特許法上の発明」（自然法則を利用したアイデアで、産業上利用できるもの）に該当しない場合は審査対象にならない可能性があります。

**提出書類：**

応募用紙表紙（様式A）・・・・・・・・・・ 2部

発明説明書（様式B、A4版タテ記述自由形式）・ 2部

発明確認シート（様式C）・・・・・・・・・・ 1部

応募用紙の様式A、Bの内容を含む電子媒体・・・ 1部

※応募用紙は、以下のホームページからダウンロードできます。第1回および第2回の本コンテストの詳細も見ることができます。

<http://hatsumei.iis.u-tokyo.ac.jp/>

**審 査：** 生産技術研究所（産学連携委員会）、財団法

人生産技術研究奨励会（TLO）、弁理士の関係者で行う予定

※審査においては、特許性よりもアイデアを重視する予定です。

**表 彰：** 最優秀賞、優秀賞、アイデア賞等

表彰式において賞状、賞金、記念品が授与されます。

※発明者が希望する場合、優秀な発明に対しては財団法人生産技術研究奨励会（TLO）が特許出願の協力を行います。

**そ の 他：** \*応募する際には事前に、「応募にあたってのご注意」をご確認ください。

\*一人で複数の発明を応募しても構いませんが、発明ごとに別々に応募してください。

\*応募された発明は応募した発明者に帰属しますので、コンテスト終了後、審査結果に関わらず応募者が出願することが可能です。

**主 催：** 生産技術研究所、

財団法人生産技術研究奨励会（TLO）

**問い合わせ先：** 〒153-8505

東京都目黒区駒場4-6-1

東京大学生産技術研究所内

（財）生産技術研究奨励会

発明コンテスト係

電話：03-5452-6094

Fax：03-5452-6096

e-mail：fpistlo@iis.u-tokyo.ac.jp

## 宇宙線研究所

### 重力波によるアインシュタイン宇宙の探査に関するシンポジウムのお知らせ

#### シンポジウム・講演会

宇宙線研究所は、来る7月14日（木）に日本学術会議物理学研究連絡委員会の主催のもと「重力波によるアインシュタイン宇宙の探査に関するシンポジウム」を開催します。

1. 開催日時：7月14日（木）13:00～17:00

2. 場所：日本学術会議講堂

3. 主催：物理学研究連絡委員会

4. 共催：天文学研究連絡委員会 宇宙線研究所

文部科学省科学研究費補助金特定領域研究

「重力波の新展開」総括班

5. 内容： 本年はアインシュタインの業績を記念した World Year of Physicsであるが、アインシュタインの一般相対性理論で予言された重力波の直接検出を目指す検出器の開発・建設が進んでいる。日本では300m基線長のTAMA干渉計が稼働状態にある。海外ではkmクラスでは第一段階のレーザー干渉計が米国で始動し始めた。しかし、現在進行中の計画で達成される感度ではまだ不足であり、1年に数個以上の重力波イベントを確実に捉えるためにはもう一段の感度向上が必要とされ、米国ではAdvanced LIGO、日本ではLCGT計画が策定されている。このシンポジウムでは、重力波の目指す物理、検出を可能にする先端技術を紹介し、各国で重力波検出一番乗りを競う世界の活発な現状について報告する。

6. プログラム (案)

- 13:00~13:10 開会の辞  
学習院大学名誉教授 (物研連委員)  
江沢洋
- 13:10~13:50 重力波研究の目指す物理  
京都大学大学院理学研究科教授  
中村卓史
- 13:50~14:30 重力波検出器の先端技術  
東京大学大学院新領域創成科学研究科  
助教授 三尾典克
- 14:30~15:10 米国の重力波検出器の現状とその将来計画  
カルフォルニア工科大学  
LIGO上級研究員 山本博章
- 15:10~15:30 休憩
- 15:30~16:10 日本の重力波検出器 (LCGT) 計画  
東京大学宇宙線研究所教授 黒田和明
- 16:10~16:30 講演のまとめ  
国立天文台教授 藤本真克
- 16:30~16:40 重力波天文学への期待  
東京大学総長 小宮山宏
- 16:40~16:50 質疑応答
- 16:50~17:00 閉会の辞  
東京大学宇宙線研究所所長 鈴木洋一郎

7. その他

事前申し込みは不要 (会場定員300名)。参加費無料。

8. 問い合わせ先

日本学術会議事務局 第4部担当  
TEL: 03-3403-1056

海洋研究所  
海洋研究所「海の日」一般公開について

お知らせ

海洋研究所では、海洋科学に関する情報を一般の方々に公開し、研究所への理解を深めていただくために一般公開を行います。

本年は「海はひろい」をキャッチコピーに、市民講座や展示、ロープワーク教室など子供から大人まで楽しめる企画を多数用意して、海洋と地球環境とのかかわりなど「海」の重要性についてお伝えしたいと思います。

多数の方々のご来場をお待ちしています。

- 日時：7月16日 (土) 12:00~16:30
- 会場：海洋研究所 (中野区南台1-15-1)
- 内容：①市民講座 (13:00~14:00) 海洋研講堂  
「海の緑化、海と鉄と地球環境」  
津田 敦 (海洋研究所助教授)  
「海の生物資源 - その生態と自然変動 -」  
渡邊 良朗 (海洋研究所教授)
- ②展示、模擬実験等 (12:00~16:30)

詳しくは、ホームページをご覧ください。  
<http://www.ori.u-tokyo.ac.jp>  
(問い合わせ先)  
海洋研究所総務課  
TEL: 03-5351-6342又は6346



「海の日」一般公開のお知らせ



総合研究博物館  
**東京大学コレクションXX**  
**『関野貞アジア踏査—平等院・法隆寺から高句麗壁画古墳へ』展**

お知らせ

6月4日(土)から9月4日(日)まで、総合研究博物館新館で特別展示『関野貞アジア踏査—平等院・法隆寺から高句麗壁画古墳へ』展を開催します。また旧館では特別展示『「Systema naturae」—標本は語る—』展を引き続き開催し、2F展示ルームでは『ヒューマン・イメージ—先史時代の儀礼と人物像』展を同時開催します。

この展覧会は19世紀末から20世紀初めにかけて、古文化財の調査・研究に大きな功績を残した建築史家、関野貞(1867~1935)の仕事をつりかえる展覧会です。関野は40年ほどの研究歴の中で日本・朝鮮半島・中国を広く踏査し、後に文化財とよばれるようになる諸物件を先進的な手法を用いて次々に調査、研究していきました。文化財の扱いがまだ確立されていなかった頃に、その修復や保存、公開にまで尽力しています。いわば東アジアにおける文化財研究の先駆者の一人です。

今回の展示では、特に奈良と朝鮮半島における関野の文化財踏査の足跡をたどり、その仕事の意義を検証してみます。膨大な数に上るフィールドカード、乾板写真、評価修復に関わった平等院鳳凰堂、法隆寺、薬師寺など古社寺の模型、図面、東アジア古建築の瓦、朝鮮古墳関連資料などが主たる展示物です。近年世界遺産に指定された高句麗古墳を保存すべく関野が制作した壁画実大模写も展示されます。

『関野貞アジア踏査—平等院・法隆寺から高句麗壁画古墳へ』展

『「Systema naturae」—標本は語る—』展  
 『ヒューマン・イメージ—先史時代の儀礼と人物像』展

- 会 期：6月4日(土)~9月4日(日)
- 休館日：月曜日  
 (月曜日が祝日の場合は開館し翌日休館)

開館時間：10:00~17:00 (入館は16:30まで)

会 場：総合研究博物館

入 場 料：無料

問い合わせ先：ハローダイヤル 03-5777-8600

URL:<http://www.um.u-tokyo.ac.jp>

総合研究博物館  
**「<sup>14</sup>C年代測定—最新の暦年較正曲線—」講演会のお知らせ**

シンポジウム・講演会

放射性炭素年代測定装置委員会(総合研究博物館年代測定室)は、第2回講演会を開催します。

<sup>14</sup>C年代測定は、考古学や人類学だけでなく、古環境、地震や火山噴火などの幅広い分野で利用されています。ところが、この方法で得られる測定値は、私たちの時間尺度とは異なっています。過去の<sup>14</sup>C濃度は、必ずしも現在の値と同じではありません。そのために、測定した値を人類共通の時間尺度に換算する操作が必要です。これを暦年較正と呼んでいます。本年3月に、暦年較正に用いる最新の暦年較正曲線IntCal04が提出されました。IntCal04は、26,000年前までの暦年較正データを提供しています。12,410年前までは年輪年代測定法に基づく年輪年代で、それより古い年代は、サンゴなどの海洋試料について、U-Th(ウラン-トリウム)年代測定法による年代を求めて、それぞれの試料年代の<sup>14</sup>C濃度を測定しています。

講演では、最新の暦年較正データの概要と、較正領域の拡大のために用いられたU-Th年代測定法、実際に暦年較正をする方法とその問題点について、解説します。<sup>14</sup>C年代測定を利用される研究者だけでなく、一般の方々の参加をお待ちします。

日 時：7月16日(土) 14時~18時  
 (13時30分開場)

場 所：総合研究博物館講義室(1階)

参加費：無料

講演者・プログラム：

吉田 邦夫(総合研究博物館)

「最新の暦年較正曲線 IntCal04」

中井 俊一(地震研究所)

「U-Th年代測定法の原理と問題点」

工藤雄一郎(東京都立大学大学院人文科学研究科)

國木田 大(大学院新領域創成科学研究科)

「暦年較正の実際と課題」

問い合わせ先：

吉田邦夫(総合研究博物館)：03-5841-2822

総合研究博物館年代測定室：03-5841-8450



# EVENT INFO

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
ドイツ・ザクセン州文部大臣バーバラ・ルートヴィヒ講演会	6月28日(火) 16:30~	駒場キャンパス18号館ホール	ドイツ・ヨーロッパ研究センター (DESK) 03-5454-6112 <a href="http://www.desk.c.u-tokyo.ac.jp/j/news.html">http://www.desk.c.u-tokyo.ac.jp/j/news.html</a>
21世紀COE・次世代ユビキタス情報社会基盤の形成第7回シンポジウム	6月29日(水) 14:00~	大講堂 (安田講堂)	大学院情報学環・学際情報学府 <a href="http://www.iii.u-tokyo.ac.jp/research/symposium/2005/04.html">http://www.iii.u-tokyo.ac.jp/research/symposium/2005/04.html</a>
第24回ビジネスローセンター公開講座 「労働契約法」制定の課題—厚労省研究会の問題提起—	6月30日(木) 13:30~	法文1号館21番教室	東京大学ビジネスローセンター (BLC) <a href="http://www.j.u-tokyo.ac.jp/blc/openseminar.html">http://www.j.u-tokyo.ac.jp/blc/openseminar.html</a>
第104回(平成17年度第7回)東文研セミナー Morocco and the Sublime Porte in XVIII Century: Inter-Islam Connections	6月30日(木) 16:00~	東洋文化研究所3階第一会議室	東洋文化研究所 森本一夫 morikazu@ioc.u-tokyo.ac.jp <a href="http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/">http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/</a>
宇宙線研究所大学院進学ガイダンス	7月1日(金)、 2日(土)	1日:理学部4号館 2日:宇宙線研究所大セミナー教室	宇宙線研究所 04-7136-5141,5119 <a href="http://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/index-j.html">http://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/index-j.html</a>
駒場学生相談所 初夏のアイデンティティ・グループ	7月2日(土)、 3日(日)	駒場学生相談所相談室	駒場学生相談所 03-5454-6186 soudanjo-komaba@park.itc.u-tokyo.ac.jp <a href="http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/soudanjo-komaba/group17.html">http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/soudanjo-komaba/group17.html</a>
21世紀COEプログラム(心とことば—進化認知科学的展開)第2回国際ワークショップ「言語脳の探求」	7月2日(土)、 3日(日)	駒場キャンパス学際交流ホール	ワークショップ準備委員会 <a href="http://ecs.c.u-tokyo.ac.jp/activity/activity.html#gengono">http://ecs.c.u-tokyo.ac.jp/activity/activity.html#gengono</a>
第13回公共政策セミナー「国土学」	7月4日(月) 17:00~	法学部4号館8階大会議室	公共政策大学院 <a href="http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/events/seminar/index.htm">http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/events/seminar/index.htm</a>
第105回(平成17年度第8回)東文研セミナー 丘山新・丘山万里子著「アジアの幸福論」春秋社2005 合評会	7月7日(木) 15:00~	東洋文化研究所3階第2会議室	東洋文化研究所 関本照夫 sekim@ioc.u-tokyo.ac.jp <a href="http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/">http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/</a>
医薬品評価科学Intensive Course	7月8日(金)、 9日(土)	薬学系研究科総合研究棟2F講堂	医薬品評価科学推進事業室(担当:瀬山喜美子) 03-5800-6988 <a href="http://www.f.u-tokyo.ac.jp/regsci/ic.htm">http://www.f.u-tokyo.ac.jp/regsci/ic.htm</a>
分子細胞生物学研究所セミナー	7月12日(火)	分子細胞生物学研究所総合研究棟2階会議室	分子細胞生物学研究所 <a href="http://www.iam.u-tokyo.ac.jp/chem/seminar.html">http://www.iam.u-tokyo.ac.jp/chem/seminar.html</a>
第106回(平成17年度第9回)東文研セミナー 土地をめぐる「旧慣」と「台湾私法」—不動産権部分のテキスト批判を手がかりに—	7月14日(木) 13:00~	東洋文化研究所3階大会議室	東洋文化研究所 <a href="http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/">http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/</a>
重力波によるアインシュタイン宇宙の探査に関するシンポジウム ※20~21ページ参照	7月14日(木) 13:00~	日本学術会議講堂	日本学術会議事務局 第4部担当 03-3403-1056 <a href="http://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/info/sympo/2005-2.html">http://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/info/sympo/2005-2.html</a>
海洋研究所「海の日」一般公開 ※21ページ参照	7月16日(土) 12:00~	海洋研究所	海洋研究所総務課 03-5351-6342又は6346
「 <sup>14</sup> C年代測定—最新の暦年較正曲線—」講演会 ※22ページ参照	7月16日(土) 14:00~	総合研究博物館1階講義室	総合研究博物館 吉田邦夫:03-5841-2822 総合研究博物館年代測定室:03-5841-8450
第6回創薬ビジョンシンポジウム「薬効・副作用発現およびそれらの個人差の解析・予測法」	7月21日(木)、 22日(金)	医学部鉄門記念講堂	創薬ビジョンシンポジウム事務局 03-5800-8717 <a href="http://bukai.pharm.or.jp/bukai_vision/sympo/6th/index.html">http://bukai.pharm.or.jp/bukai_vision/sympo/6th/index.html</a>
第1回研究所ネットワーク国際シンポジウム「ゲノムシステム医科学—Bench to Bedsides—」 ※19ページ参照	7月22日(金) ~24日(日)	医科学研究所講堂及び医科研病棟8階会議室	医科学研究所学術連携推進室 <a href="http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imswww/Event/symposium050722-j.htm">http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imswww/Event/symposium050722-j.htm</a> LOCUS@ims.u-tokyo.ac.jp
平成18年度美術史学研究室 大学院・学士入試説明会	7月23日(土)	法文2号館1大教室	東京大学文学部美術史学研究室 03-5841-3800 <a href="http://www.l.u-tokyo.ac.jp/cgi-bin/report.cgi?mode=2&amp;id=3">http://www.l.u-tokyo.ac.jp/cgi-bin/report.cgi?mode=2&amp;id=3</a>
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
高校生のための金曜特別講座(夏学期)	4月15日(金) ~7月8日(金)	教養学部11号館2階1106教室	教養学部教養教育開発機構寄附部門 松田良一 03-5454-6637 <a href="http://www.c.u-tokyo.ac.jp/jpn/kyoyo/koukai2005summer.html">http://www.c.u-tokyo.ac.jp/jpn/kyoyo/koukai2005summer.html</a>
国際協働プロジェクト「グローバル・スーク」展 ※学内広報1315号参照	5月27日(金) ~7月31日(日)	総合研究博物館小石川分館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 <a href="http://www.um.u-tokyo.ac.jp">http://www.um.u-tokyo.ac.jp</a>
特別展示「『Systema naturae』~標本は語る~」展	6月4日(土) ~9月4日(日)	総合研究博物館旧館展示ホール	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 <a href="http://www.um.u-tokyo.ac.jp">http://www.um.u-tokyo.ac.jp</a>
特別展示「東京大学コレクション XX:関野貞アジア踏査—平等院・法隆寺から高句麗古墳壁画へ」展 ※22ページ参照	6月4日(土) ~9月4日(日)	総合研究博物館1階新館展示ホール	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 <a href="http://www.um.u-tokyo.ac.jp">http://www.um.u-tokyo.ac.jp</a>
ヒューマン・イメージ—先史時代の儀礼と人物像	6月4日(土) ~9月4日(日)	総合研究博物館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 <a href="http://www.um.u-tokyo.ac.jp">http://www.um.u-tokyo.ac.jp</a>
第31回生研公開講座イブニングセミナー「安全で安心な都市の実現のために」	6月10日(金) ~7月29日(金)	駒場リサーチキャンパス総合研究実験棟3階大会議室	生産技術研究所広報企画係 03-5452-6017 <a href="http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/">http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/</a>

## 本郷キャンパス点描

理学部化学教室では、ダイヴァースの胸像を裏庭から御殿下側のすずかけ通りに移転しようとしている。この像は1900年に帝国理科大学の前面に建立され、1916年に現在の化学東館（赤レンガ）が新築された際に、化学館と御殿下グラウンドとの間の道路沿いに移されたそうで、元の場所に戻ることになる。ダイヴァースは、1873年より26年も日本に滞在して化学教室の建設時に献身的に尽くされた方である。次亜硝酸塩の発見者（1871年）として知られる。医学部、工学部界限にも立派な胸像、立像などがあり、往時の医学、工学教育の萌芽期にお世話になった外国人教師であると聞く。優れた人物を招聘した明治の人々の努力に思いをはせる。

東大のキャンパスの緑は今年も大変美しい。古い立派な木々が、あるべきところに根をはっ



ていて、心に豊かさを与えてくれる。当時の人の業に感心する。東大の古い建物も風格と調和があり総じて目に快い。古くはないが、高度成長の頃の建物も外装・補修をし、例えば赤門そばの経済学部建物は見違えるほどに品格がよくなっている。随所で、建物、通り、その周辺の植え込みも美しく整えられ、庭園のようなところも少なくない。品の良いデザインの外灯もいくつも設置され、昼も夜もキャンパス風景をお洒落にしている。

良いところばかりではない。最近周辺と調和の乏しい建物が少なからず建設されている。例えば本郷通り沿いの木々が大分伐採され、正門付近の美しさを損ねてしまっている。おまけに周辺としっくりなじまない造りの建物が一層落ち着かない気分を与える。東京の都市景観に似て、新しいビルが互いにコーディネートされて建っているようには見えない。

梅澤 喜夫（大学院理学系研究科）

（淡青評論は、学内の職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

〔訂正〕

「学内広報」において、一部誤りがありましたので、訂正してお詫びします。

No.1315 (2005.6.8)

表紙写真の説明文

（誤）民族舞踊研究会による踊り → （正）東京大学フラメンコ舞踏団による踊り

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1316 2005年6月22日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号  
東京大学総務部広報課 ☎ 03-3811-3393  
e-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
ホームページ [http://www.u-tokyo.ac.jp/index\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html)



東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO